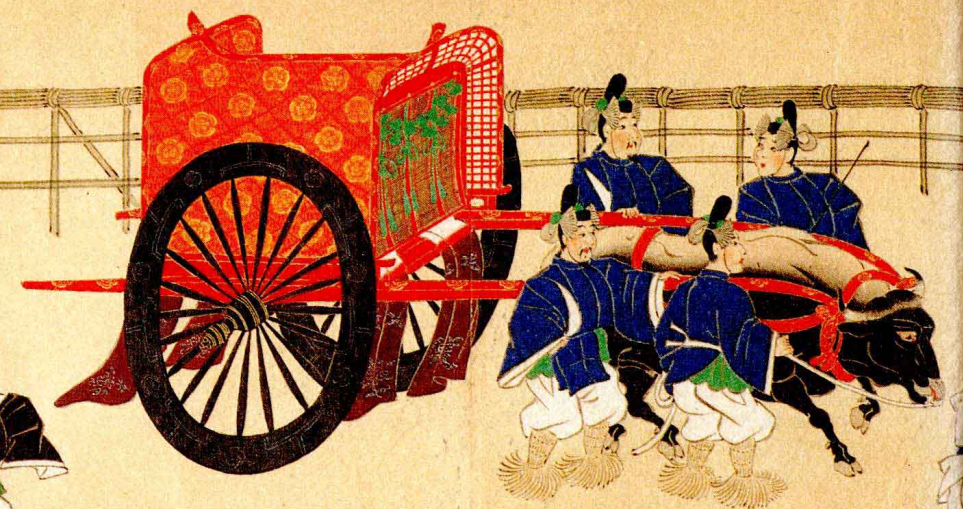


深層の天皇

源氏物語の古京

廣川勝美



人文書院

廣川勝美

深層の天皇

源氏物語の古京

人文書院

著者紹介

廣川勝美（ひろかわ・かつみ）

1936年徳島県生れ。1959年同志社大学文学部卒業，同大学院修士課程を経て，1964年同志社大学文学部助手。現在同志社大学文学部教授。文学博士。

著書 『ものがたり研究序説』（桜楓社，1985年），『犯しと異人』（人文書院，1986年），『儀礼言語の様式』（桜楓社，1989年）。

編著書 『物語と説話』（汐文社，1974年），『神話・禁忌・漂泊』（桜楓社，1976年），『土くれの語り部たち』（創世記，1977年），『源氏物語の植物』（笠間書院，1978年），『民間伝承集成』（『民話』『遍路』『わらべ唄』『木地師』『憑きもの』『落人』『塩の道』，創世記，1978～82年），『伝承の神話学』（人文書院，1984年），『古代文学の様式と機能』（桜楓社，1988年），『源氏物語 地名と方法』（桜楓社，1990年）など。

深層の天皇

源氏物語の古京

一九九〇年二月五日 初版第一刷印刷
一九九〇年二月一〇日 初版第一刷発行

著者 廣川勝美

発行者 渡辺睦久

発行所 人文書院

京都市下京区仏光寺通高倉西
電話〇七五(三五一)三三九一
振替京都〇一一一〇三

印刷 創栄図書印刷株式会社
製本 坂井製本所

© Katsumi HIROKAWA

Printed in Japan.

ISBN4-409-52014-8 C1095

深層の天皇
目次

宮都の伝承

七



怨霊の宮都

五七



悪所の物の怪

一〇三

古京への回帰

一四三



終末としてのプロローグ

一八五

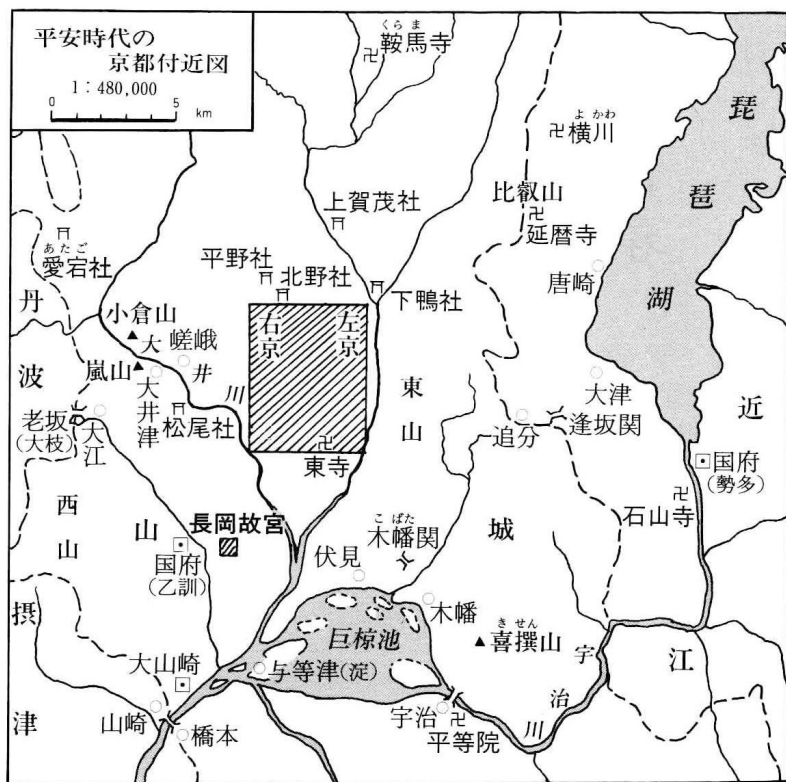
あとがき

参考文献一覧

深層の天皇

源氏物語の古京

宮都の伝承



御所の杜

御代替りである。

さほど高くない山々に包まれた京。その真中の深い杜が御所である。

そこにめぐる四季の折々に王朝絵巻がくり広げられる。即位の儀式と行事はとりわけ盛大で華麗である。宮都は盛儀のためにこそ造られたというべきである。

それにしても、平城京から山背^{やましろ}への遷都を決定してから平安京までは長かった。この間には十年の歳月をかけた長岡京の造営と突然の廃都がある。遷都の背景には秘められた事情がある。そして、ここに即位する天皇の玉座には濃い翳が覆っている。

平安京の歴史には何かがある。それまでの廃都の幾重にも重なる影をこの宮都は引きずっている。そうした重層的なこの地は隠蔽された代々の出来事を記憶しているにちがいない。それが御代替りに甦ってくる。

一日のさんざめきの終った黄昏から次第に夜の帳^{とば}りに閉ざされる刻、御所の杜は空虚となる。だが、同時に、杜には闇が隙間もなくおそろしいほど詰まりはじめる。その闇の底には何ものかが隠れ棲んでいる。宮都の中心にある杜の闇は秘密を抱えている。

御代替りは天皇の交替のみならず、それに伴う、大臣、官人の移動であり、後宮の組み換えである。内裏の内外に大きな変動が生じることとなる。そのためにこそ、あれこれの親王の擁立があり、勝利者と敗退者の運命がある。

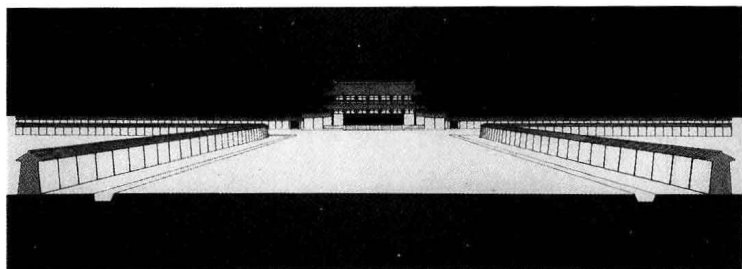
新たに権勢を獲得した勝者は自らが排除した敗者の鎮まらぬ魂に脅かされることになる。怨霊である。朝廷が栄華の影に最初から隠しもっていた秘密が都の地の底から滲み出ようとする。それは聖なる天皇の系譜を根底から覆す衝撃をもっている。

かつて御代替りには形式的にせよ遷都が行なわれた。それが平安京に至ってなくなった。再三の遷都は世直しであり、帝位を脅かす怨霊から逃れることでもあった。長岡京の放棄にしてからが、造都が計画通り進まぬこと、あるいは人力、財力の不足などが理由であるとしても、廃太子早良親王の怨霊に対する桓武天皇の畏怖にあることもたしかである。

遷都の中止は政権の固定であり、同時に、代々の怨霊を宮都の地の底に棲まわせることになる。朝廷が排除した親王たちの祟りなす怨霊は天皇と宮都そのものを脅かす。それは歴史の深層に隠されている出来事の報復である。

宮都の景観

平安京は、延喜十三年の詔にいう、山河襟帯、自然おのづからに城なを作す地であり、北と東西は山に囲ま

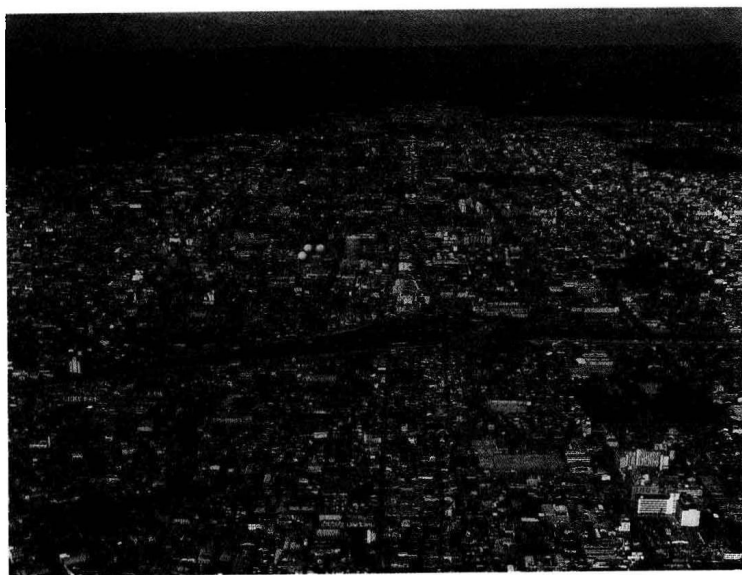


「朱雀大路の構造」(京都市埋蔵文化財研究所)

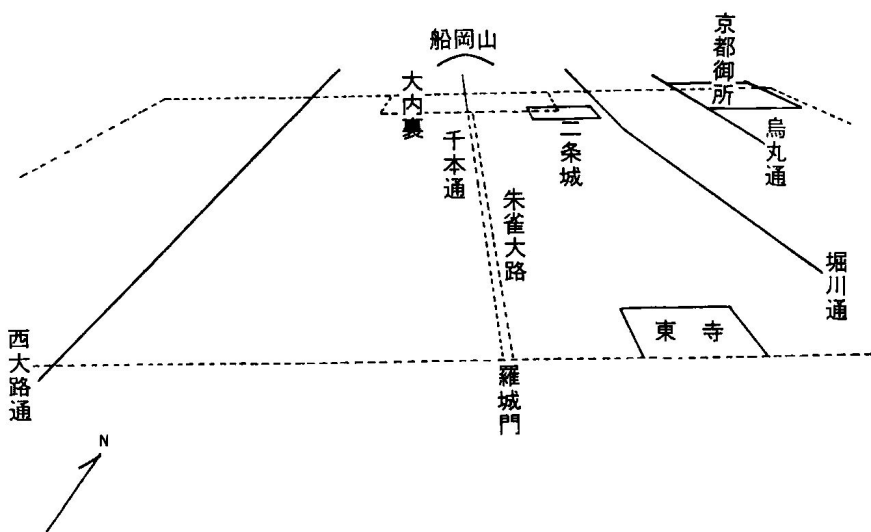
れ、南には巨^{おぐら}棕池が横たわる。その形勝をもって山城と新たに号された。この地は四神相応の地であり、東に青竜たる流水、西に白虎たる大道、南に朱雀たる沢畔、北に玄武たる高山が配置されている。東は会坂の堺、西は大枝の堺、南は山崎の堺、北は和邇の堺で四神を祀った。総じて藏風得水の地といえる。ここを宮都として占地して平安京が造営された。京城は山城国葛野郡と愛宕郡にまたがっている。北から南に流れている賀茂川と葛野川が東西の京極を劃している。

平安京の南端、朱塗りの重層の羅城門をくぐると幅二十八丈の朱雀大路がひらける。両側に柳が植えられている。北は大内裏の正門、朱雀門に至る。この南北の中心線の北方に見えるのは船岡山である。この大路を通して延暦十三年に桓武天皇の車駕が遷御した。平安京の造営は完了していなかった。大極殿の竣工は遷都の翌年である。むしろ、平安京は絶えず造営され続けていたというべきである。それが宮都である。

平安京は朱雀大路を基本として左右の京、東の京と西の京に分つ。そして、朱雀大路を中心として左右に一坊大路から四坊大路に至る大路が南北に走る。北から南に一条から九条に至る大路が東西に走る。大内裏である平安宮は、北は一条から南は二条まで、東西はそれぞ



空から見た平安京の位置（京都市埋蔵文化財研究所）



れ大宮大路まで、京城の北端の中央に位置する。大内裏には朝堂院や豊楽院、官衙、さらに内裏がある。周囲には築地をめぐらし、その外側に幅八尺の御溝水が流れている。大内裏には南面の正門朱雀門をはじめ十四門の宮城門がある。

内裏は皇居である。大内裏のほぼ中央、東北寄りにある。四方に築地をめぐらす。中の重、宮垣という。四面に七門の宮門がある。中の重の内にもた一郭を設け、四周に朱塗りの廊をめぐらしている。内の重、閤垣という。四面に十二門の閤門がある。この中に、十七殿五舎が薨を並べ、廊をもつて連なっている。内裏の正殿は紫宸殿で、南殿ともいう。天皇の常の御在所は清涼殿である。その後に、弘徽殿、淑景舎、飛香舎など、皇妃の曹司、後宮十二殿舎が並ぶ。

平安宮を中心に周囲を囲む平安京は入れ子構造をなす。大内裏の位置する一条、後には北辺から羅城門の位置する南の九条まではゆるやかな傾斜地である。そのような地形をもつ宮都は縦横に走る基盤状の大路と小路が京中の土地を区劃する。そこに親王、諸王、大官の邸第が広大な敷地に営まれる。その他に中、下級の官人、さらに庶民の住まいが造られる。さらに、朱雀大路の左右に対称的に建立された東寺、西寺、東西の市、東西の鴻臚館などが宮都の都市的景観をつくる。一切の配置は天皇を頂点とする秩序そのものである。そのような意味で、宮都は平安京によって定まったといえよう。

